



## 「水泳を通して学んだ事」



桜谷小学校 六年 森本 葵

私は今、がんばっていることがあります。それは水泳です。

私は、幼稚園の年長の時から約七年間、水泳を習っています。水泳を始めた理由は、ひどかったぜんそくを治すためでした。幼稚園に通っていた頃は、一度かぜをひくと、ぜんそくがひどくなり、十日間ほど欠席する日が何度もありました。そこで、母が、ぜんそくに負けない強い体をつくるために私を水泳教室に連れて行ってくれたのです。

でも最初の頃は、顔に水がかかるのもいやで、楽しいと思ったことはありませんでした。プールに行くときちゅうの車の中で、行きたくないと言ったことも何度かありました。また、ぜんそくが出ると、しばらくは、水泳を休んでいました。そのために、なかなか進級テストが受からず、自分よりも小さい人たちにまじって練習していた時もありました。

それでもずっと通っているうちに、少しずつ楽しい事もでてきました。一つ目は、たくさんの友だちができたことです。水泳教室には、同じ学校の人が少ないので、他校の友だちとの交流する機会が多くなりまし

た。水泳の休けいの時間には、他校の人たちと水中おにごっこをしたり、話したりして遊んでいます。

二つ目は、テストに合格して進級していくことです。私も少しずつ進級できるようになり、うれしくなりました。私の通っている水泳教室では、四泳法を習います。四泳法とは、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライのことです。それらの泳ぎを習って、進級できたことがとてもうれしいです。進級できると、次もまたがんばろうと思いました。いろいろな泳ぎができるようになるだけでなく、長い距離が泳げるようになり、少しずつですがタイムも速くなったりしてきました。

しかし、いつも楽しい事ばかりではありませんでした。四年生くらいの時、泳ぐのがむずかしくて、なかなか泳げない頃もありました。また、体調が悪くて、休まなければいけないときもありました。そんな時には、進級テストを受けても受からず、級をあげることもできませんでした。そういうことが何度も何度もありました。

他の人たちが上がったのに、自分は進級できなくていやになることもありました。みんなの前では、ふつうにしているけど、心の中ではくやしと思うこともありました。進級した人をうらやましながら、私は練習をがんばりました。負けるのはいやだったので自分の次の目標に向けて練習しました。

そんな私を家族はいつも励ましてくれました。応援してくれました。そして、進級テストに受かった時には、家族もとても喜んでくれました。家族が喜んでくれるのを見て、またがんばろうと思いました。私が特級になった時も、なぜ、こんなに喜んでくれるのだろうと、不思議に思うくらいみんな喜んでくれました。

「よくやったな。またがんばって続けいよ。」

「コツコツがんばってきてよかったな。」

とほめてもらってうれしかったです。そしてまた次もがんばろうと思えました。

私は今まで水泳を続けてきて学んだことがあります。それは、コツコツがんばったら必ず良いことがあると言うことです。最初は本当にいやがっていた水泳も今では好きなスポーツになりました。いろいろな泳ぎ方で、長い距離を泳げるようになり、自信がついてきました。学校でも、友だちにアドバイスができるようになりました。好きになり、自信がついてくると、次もまたがんばろうと思えます。

そして、今回の意見発表の話聞いた時、みんなの前で話してみようと思い、手を挙げました。これからも、水泳だけでなく、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。

